

【調査研究部門】福井大学の遠藤貴広先生を講師に招いて「教職キャリア研究会（第4回）」を開催しました。

教職キャリア開発センター調査研究部門主催の「教職キャリア研究会（第4回）」を平成26年2月5日に開催しました。本研究会は、学内教職員の「教職キャリア」に対する理解を深めることを目的として、継続的に開催されているものです。

今回の研究会では、福井大学教育地域科学部の遠藤貴広先生を講師としてお招きし、同大学の学校教育課程で行われているユニークな取り組みを中心に講演をしていただきました。フレンドシップ事業を中軸にした「探究ネットワーク」は、土曜日に大学へ地域の子どもたちが来て、学生スタッフと紙すき・人形劇・キャンプ・探検・街の調査・調理、合宿やキャンプ等を楽しむ年間を通じた協働プロジェクトで、企画・立案、運営、安全管理、会計、広報などはすべて学生が行います。学生には、毎回の活動の省察に加え、中間および最終発表会、そして報告書の刊行という形で、自らの活動を振り返る機会が与えられます。他にも不登校児・発達障害児の交流・支援を行う「ライフパートナー活動」や、学生が高校生に大学での学びを語る「公開クロスセッション」、福井大学の教員養成スタンダードやカリキュラム・マップなどについての説明がありました。

今回の研究会では、参加者は自らの興味がある点を中心に遠藤先生へ質問を行い、討議を行いました。たとえばチーム・ティーチングや協働学習という授業方法の利点と課題、プロジェクトを適切に運用するための学生の規模やモチベーションの持たせ方、授業や学生の省察の評価方法、eポートフォリオの運営、参加する子どもや保護者へのプロジェクトの趣旨および安全・衛生管理の理解、課外活動に対する学生のタイムマネジメント、自発的な学びができる風土を作り上げるために必要なことなど、さまざまな視点について、福井大学の実践からヒントを得ることができました。

学生は、プロジェクトを立ち上げる際の大変さを克服し、世代継承して持続させることと同時に、恒常的に変化を持たせ、そこでの困難を省察することで新たな学びを行います。学生だけではなく教員も、ともしればルーティン化に安心感を求めてしまいがちですが、このような認識を持ちながら、授業やプロジェクトに取り組むことが重要であると感じさせられました。

教職キャリア開発センターでは、来年度以降もこのような研究会を通じて、教職キャリア形成についての理解を深めていきたいと考えています。



福井大学の遠藤貴広先生の講演